

東南アジア日食観測概況 (タイ・ナコンサワン)

本田智之

私たちのグループは今回の日食をタイの北部ナコンサワンで観測をしましたので、その状況を報告します。

1. 観測地について

ナコンサワンはタイ北部ナコンサワン県の中心地で、バンコクから北へおよそ200Kmにある街です。今回の日食ではほぼ中心線上にあたりました。観測地は市街の中程にある7階建のピマンホテルの屋上で、この街では背が高い方の建物なので、視界は360度確保されており、観測地としては申し分の無いものでした。以下に、現場でGPSで調べた緯度経度を示します。

東経 100度07分04.5秒

北緯 15度41分50.5秒

皆さんご存知の通りタイは日食の直前まで雨期が明けず、今回観測地としたナコンサワンでも町中が洪水で、養殖のワニも逃げ出したと言うニュースが聞かれるほどでした。ちなみに、近隣のホテルではロビーまでワニが上がってきたところがあったそうです。しかし、現地入り前には雨期も開けて町中の水も引いており、道路上に積もった泥がなごりを残している程度でした。

ナコンサワン周辺には私達のツアーの約130名の他にもかなりの数の日本人が入り込んでいたようですが、実際の数は把握できませんでした。中には前日の深夜に到着し、ホテルを訪ねてきて観測の時だけ屋上を使わせて欲しいと頼み込んできたゲリラツアーを敢行した連中もいたようでした。

2. 観測の様子

ホテルの屋上はこのツアーが貸し切っていたものの、約130名もの大所帯だったので少々窮屈に感じられました。また、主催者側より、東西線が3本ほどひかれましたが、各自スペースをとって設置するのがやっとという感じでした。

観測者のおよそ8割はカメラ、ビデオなどの機材を持ち込んでの観測でした。しかし、赤道儀などの前夜からの設置は滞在中のホテルの屋上でありながら、治安上の問題からお勧めできないとのことでした。中には盗難を覚悟で夜間のうちにセッティングを敢行するものもいたようでした。(結局ホテル側の配慮から騒ぐの番をつけてもらえました)。ほとんどの人は、方位磁針・分度器を使用しての極軸合せとなりましたが、日食撮影をするにはこれでなかなか十分でした。また、現場では、コマンダーやJJYは流さなかった代わりに主催者の係員が接触

時間などを拡声器で知らせる形で行われました。

さて、空には一点の曇りもなく、いよいよ第一接触を迎え日食が始まりました。この時点では皆、まだまだ余裕があり、中にはまだ準備が終わっていない人もいました。ツアーの係員が食分を読み上げ、皆既が近づいてくるなか、南の方より薄雲が広がりはじめ、第2接触前には太陽に掛かるようになりましたが、観測には大きな支障はありませんでした（詳しくは後で述べます）。第2接触の10分前頃から、周田から爆竹や花火を打ち上げる音が聞こえるようになりました。やがて辺りがかなり暗くなり、第2接触の約3分30秒前（現地時間10時43分）に金星が視認され、1分30秒前には東南から北西に向けてシャドーバンドがかなりはっきりと流れました。しかし、本影錐を確認できた人はあまりいなかったようでした。皆既に突入すると、街中は花火とクラクションの喧騒に包まれ、ホテルの屋上も歓声とシャッター音が響き渡りました。皆既中には水星も確認されました。コロナの明るさは、メキシコ日食とデータを合わせて撮った広角写真が露出オーバーだったことから、今回の方が明るかったかと思えます。

継続時間の予報は1分45秒でありましたが、観測後ビデオで確認したところおよそ1分38秒でした。ツアー主催者が配布した予報に比べ、第2接触が3秒程度の遅れで、第3接触が4秒程早くなっていましたが、これは、ナコンサワンでの月縁図から見ても第2、第3接触の両方とも深い谷に入ったためと思われる。第2、3接触の現地時間での接触時間を以下に記します。（ビデオから読みとったものなのであまり厳密なものではありません。）

第2接触 10時47分10秒

第3接触 10時48分48秒

そして、短いショーに別れを告げるダイヤモンドリングが輝きだし、シャドーバンドが東南東から西北西へと流れていきました。皆既日食が終了すると、周田から拍手が湧き起こり、観測の成功を喜ぶ声があちこちから聞こえました。第4接触の頃には観測をしている人もまばらになり、当日中にバンコクへ戻らなければならない私たちは、余韻に浸るまもなく後片づけをして昼食を済まし、バスへと乗り込みました。

3. 天候について

今回の日食のナコンサワンでの皆既中の天候評価は、真砂氏の階級表によれば階級3にあたると思われます。その状況は以下のとおりです。

当日は朝から雲一つ無い晴天で日食は始まりました。しかし、食分が進行するにつれて、南天から薄雲が広がり、第2接触前には太陽に掛かるようになってしまいました。眼視では十分コロナが観測できましたが、直焦写真等では、ダイヤモンドリングにはハロやにじみが出てしまいおり、コロナも超外部コロナの撮影では画像が白くとんでしまうなどの影響が出ました。以上の状況から今回の天候は階級3が適当と思われる。

4. 地元の人達の様子

現地の様子は、ホテルの前には日食をあしらった大きな看板が立ててあったり（もちろん内容は分かりませんが）、ロビーや玄関にはポスターが貼出されるなど、街の人達も日食を意識しているようでした。また、ピマンホテルと市内のもう一つのホテルが提供して地元のFMラジオでホテルの敷地内での観測を勧める広告を流していたそうです。

日食当日は、ホテルの裏の駐車場には、おそらく近隣の小学生と思われる団体が先生に引率されて整列をして観望をしていました。周囲の家々も庭やベランダ、屋根の上などに出て思いのままに空を見上げていました。やがて、皆既日食が近づいてくると、爆竹の音や打ち上げ花火の音が聞こえてくるようになりました。そして、いよいよ皆既が始まると、花火の音が一層大きくそして数多く聞こえるようになり、また、車のクラクションがあちこちで鳴りっぱなしになりました。これは、聞いた話ですが、日食は不吉なことであるため、妊婦が見ると悪魔の子を生むなどの言い伝えがあり、警告のために大きな音を鳴らしているとか、空の光が無くならないように太陽の代わりに花火を上げていたのだそうです。普段は大渋滞の幹線道路も皆既中は車の通行もほとんど無いようでした。

日食の様子は、テレビのニュースでも放送され、私たちの観測風景もお昼の放送でほんの数秒でしたが、放送されました。

5. おわりに

今回の日食では、天文機材販売店と大手旅行代理店が主催したツアーに参加しての日食観測となりました。日本から近いこともあってかなりの数のツアーが生まれ、大勢の日本人が手軽に日食を楽しめたのは良かったとは思いました。しかし、いくつもの大手代理店が大規模なツアーを企画すると、現地での交通や宿泊施設を独占してしまい、個人や小グループでの観測旅行を組もうとしても思うように企画できなくなってしまったり、旅行代金の高騰を招いたりする恐れもあると思います。旅行代理店も日食は水物だけに観光の要素も取り入れてのツアーになるのはやむを得ないかと思いますが、それが為に観測に集中できなくなれば本末転倒です。今後もこのような形でのツアーが主流になってくると思いますが、あまり宣伝には踊らされずに観測の本質を忘れずにツアーを見極めていくことが必要になるかと思います。